

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成21年10月8日(2009.10.8)

【公開番号】特開2008-96541(P2008-96541A)

【公開日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2006-275729(P2006-275729)

【国際特許分類】

G 1 0 L 15/22 (2006.01)

G 1 0 L 15/00 (2006.01)

G 1 0 L 15/06 (2006.01)

G 0 6 F 3/16 (2006.01)

【F I】

G 1 0 L 15/22 2 0 0 H

G 1 0 L 15/22 2 0 0 V

G 1 0 L 15/00 2 0 0 Q

G 1 0 L 15/06 2 0 0 B

G 0 6 F 3/16 3 2 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月26日(2009.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

階層化された複数のメニュー状態を有し、各メニュー状態へ直接遷移するためのショートカットデータを設定する音声処理装置であって、

ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、該所定のメニュー状態へ遷移するためのショートカットデータと音声認識対象語彙との対応付けを設定する設定手段と、

音声を入力する音声入力手段と、

前記音声入力手段で入力された音声認識する音声認識手段と、

前記音声認識手段の認識結果と一致する音声認識語彙に対応するショートカットデータを用いてメニュー状態を遷移させる制御手段と、

を備えたことを特徴とする音声処理装置。

【請求項 2】

前記設定手段は、音声認識語彙とショートカットデータとを対応付けて前記制御手段に登録することを特徴とする請求項 1 記載の音声処理装置。

【請求項 3】

音声認識対象語彙とショートカットデータとを対応付けて、非アクティブの状態ですべて記憶する記憶手段を更に備え、

前記設定手段は、前記所定のメニュー状態へ遷移するためのショートカットデータをアクティブ化することにより設定することを特徴とする請求項 1 記載の音声処理装置。

【請求項 4】

前記設定手段により前記対応付けが設定された場合に、前記所定のメニュー状態への音声入力によるショートカットが可能になったことをユーザに通知する通知部をさらに備え

ることを特徴とする請求項 1 に記載の音声処理装置。

【請求項 5】

前記設定手段は、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、前記設定の実行可否をユーザから受け付け、実行不可だった場合には設定を行わないことを特徴とする請求項 1 に記載の音声処理装置。

【請求項 6】

前記設定手段は、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、音声認識対象語彙をユーザから受け付け、該音声認識対象語彙と前記ショートカットデータとを対応付けて登録することを特徴とする請求項 2 に記載の音声処理装置。

【請求項 7】

前記設定手段は、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に初めて遷移した際に前記設定を行うことを特徴とする請求項 1 に記載の音声処理装置。

【請求項 8】

前記設定手段は、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に、予め設定された回数遷移した際に前記設定を行うことを特徴とする請求項 1 に記載の音声処理装置。

【請求項 9】

階層化された複数のメニュー状態を有し、各メニュー状態へ直接遷移するためのショートカットデータを設定する音声処理装置の制御方法であって、

設定手段が、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、該所定のメニュー状態へ遷移するためのショートカットデータと音声認識対象語彙との対応付けを設定する設定工程と、

音声入力手段が、音声を入力する音声入力工程と、

音声認識手段が、前記音声入力工程で入力された音声認識する音声認識工程と、

制御手段が、前記音声認識工程の認識結果と一致する音声認識語彙に対応するショートカットデータを用いてメニュー状態を遷移させる制御工程と、を備えたことを特徴とする制御方法。

【請求項 10】

コンピュータを、請求項 1 乃至 8 の何れか一項に記載の音声処理装置の各手段として機能させるためのコンピュータ・プログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上述の問題点を解決するために、本発明の音声処理装置は以下の構成を備える。すなわち、階層化された複数のメニュー状態を有し、各メニュー状態へ直接遷移するためのショートカットデータを設定する音声処理装置において、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、該所定のメニュー状態へ遷移するためのショートカットデータと音声認識対象語彙との対応付けを設定する設定手段と、音声を入力する音声入力手段と、前記音声入力手段で入力された音声を認識する音声認識手段と、前記音声認識手段の認識結果と一致する音声認識語彙に対応するショートカットデータを用いてメニュー状態を遷移させる制御手段と、を備える

。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

上述の問題点を解決するために、本発明の音声処理装置の制御方法は以下の構成を備える。すなわち、階層化された複数のメニュー状態を有し、各メニュー状態へ直接遷移するためのショートカットデータを設定する音声処理装置の制御方法において、設定手段が、ユーザによる操作入力部への操作入力により前記複数のメニュー状態に含まれる所定のメニュー状態に遷移した際に、該所定のメニュー状態へ遷移するためのショートカットデータと音声認識対象語彙との対応付けを設定する設定工程と、音声入力手段が、音声を入力する音声入力工程と、音声認識手段が、前記音声入力工程で入力された音声を認識する音声認識工程と、制御手段が、前記音声認識工程の認識結果と一致する音声認識語彙に対応するショートカットデータを用いてメニュー状態を遷移させる制御工程と、を備える。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 削除

【補正の内容】